

筑後川水系では、令和2年及び令和5年に大雨による浸水が発生しました。

図1及び図2の浸水推定図は、国土地理院が収集した画像等と標高データを用いて、浸水範囲における水深を算出して深さを濃淡で表現した地図です。

図3のように治水地形分類図と浸水推定図を重ね合わせると、旧河道や氾濫平野が浸水推定範囲となっていることがわかります。

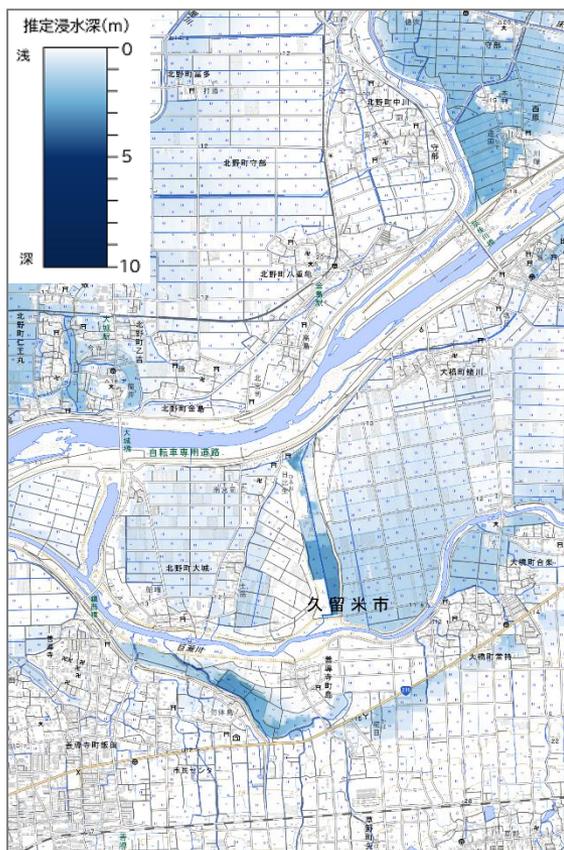


図1 令和2年7月豪雨による浸水推定図(筑後川水系 筑後川)

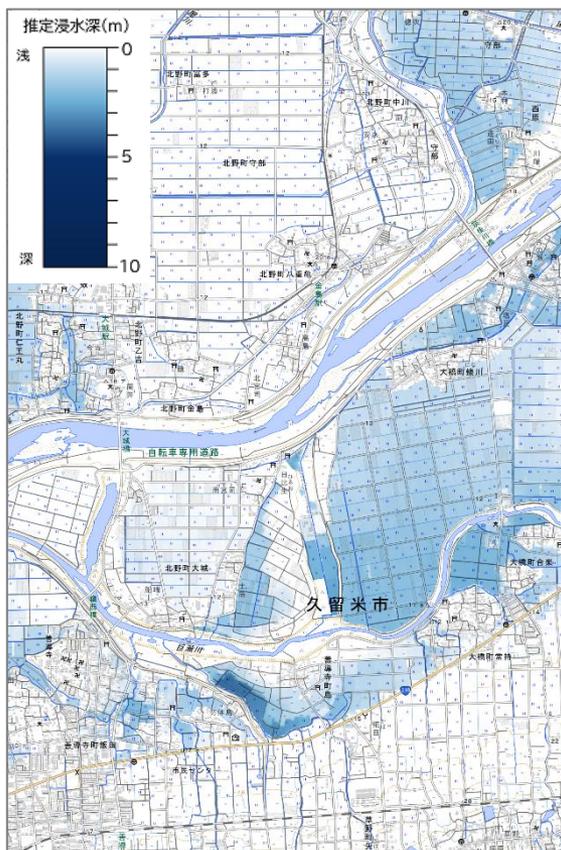


図2 令和5年6月29日からの大雨による浸水推定図(筑後川水系 筑後川)



図3 治水地形分類図と令和5年6月29日からの大雨による浸水推定図との重ね合わせ

今回新たに公開する治水地形分類図「母畑(ぼぼた)」からは、阿武隈川上流に河川の蛇行によって形成された微高地(自然堤防)や旧河道、氾濫平野などの地形があることがわかります(図1)。

令和元年台風19号に伴う大雨による浸水推定図(図2)を重ね合わせると(図3)、旧河道や氾濫平野は浸水推定範囲となっていることがわかります。

このように、治水地形分類図の地形分類は、自然災害リスクの把握に有効な情報です。

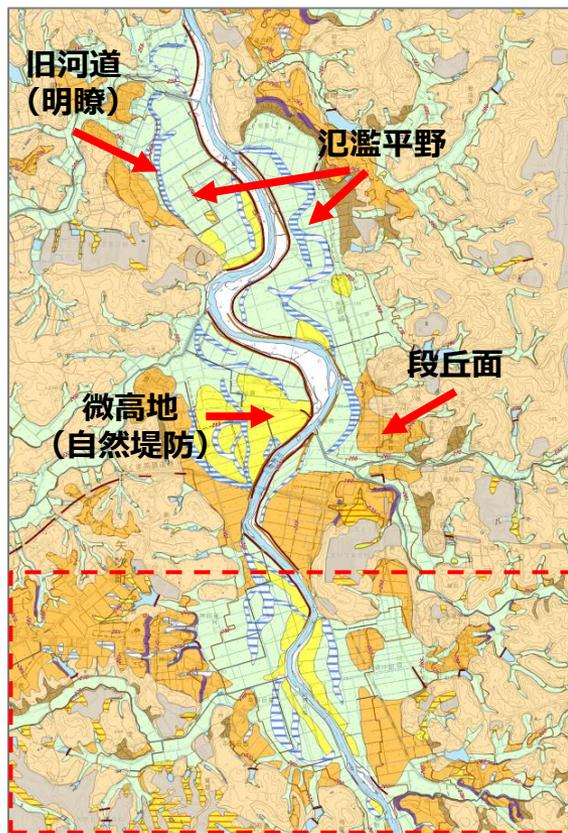


図1 治水地形分類図「母畑」  
(阿武隈川水系)

 令和5年度整備拡大範囲

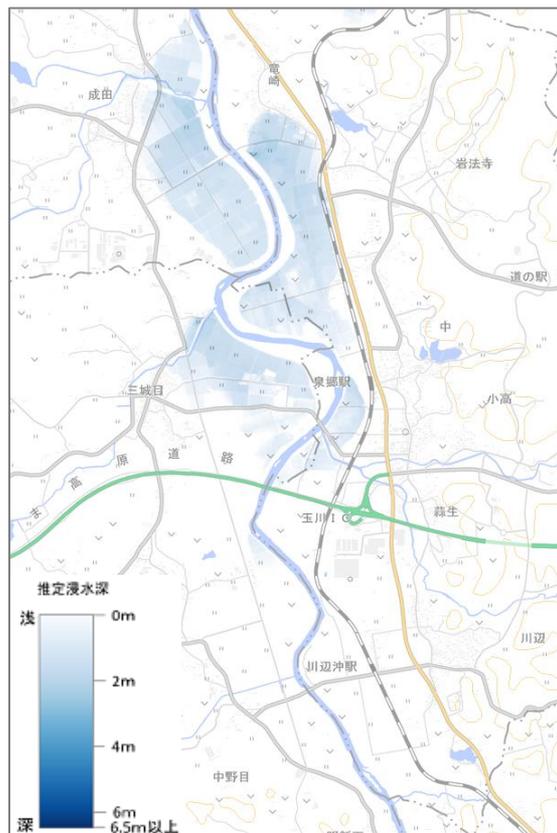


図2 令和元年台風19号に伴う  
大雨による浸水推定図  
(阿武隈川水系 阿武隈川)

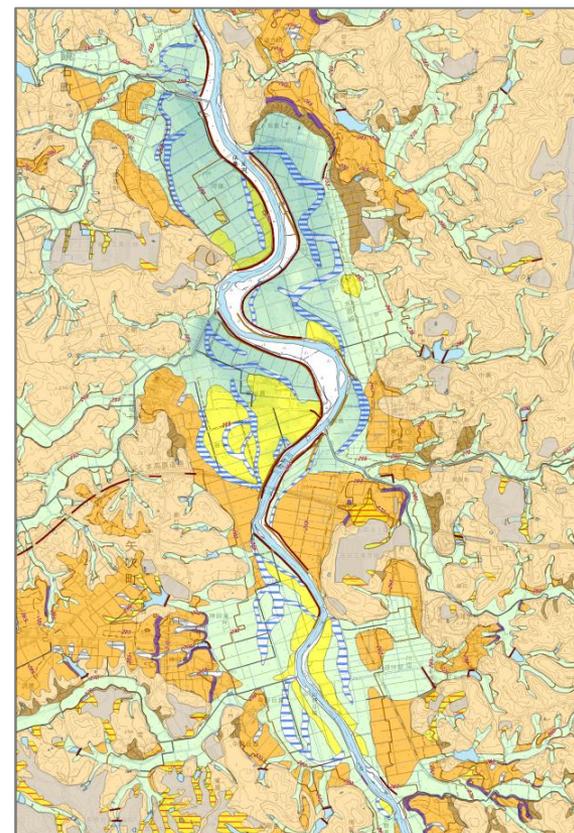


図3 治水地形分類図「母畑」と  
浸水推定図との重ね合わせ  
(阿武隈川水系 阿武隈川)